

西アジア考古学・文化遺産セミナー：特別展
文化庁委託・令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業
「イラク・クルディスタン地域における文化遺産国際協力拠点交流事業」

イラク・クルディスタン 2

その文化遺産と歴史

Iraqi Kurdistan Part II : Its Cultural Heritage and History



イラク・クルディスタンの首府アルビールの旧市街（撮影：西山伸一）

2021年11月29日(月)～12月24日(金)

場所：中部大学附属三浦記念図書館 エントランスホール&1階センターエリア

主催：文化庁・中部大学

共催：ヤシン・テペ考古学プロジェクト

開館時間：午前9時～午後9時(月～金)、午前9時半～午後4時半(土)、12月24日(金)は午後15時まで

休館日：日曜日、12月8日(水)

観覧料：無料

イラク・クルディスタン 2

その文化遺産と歴史

開催趣旨

中部大学では2018年より文化庁から委託を受けイラク共和国クルディスタン地域における文化遺産保護事業を実施しています。クルディスタンは、主にクルド民族が暮らす地域で、戦乱の続いたイラクで例外的に治安が安定しています。ここでは、本学の西山伸一教授率いるヤシン・テペ考古学プロジェクトが2016年よりフィールドワークを実施しており、これまでメソポタミア文明の一部であるアッシリア帝国に関する数々の発見が報告されています。

今回の特別展は、クルディスタン地域における文化遺産保護事業と考古学の成果を広く知らしめるために開催されます。クルディスタン地域でどのような活動が行われて、それがどのような意義をもつのかを写真パネルを通して知っていただきたく思います。中部大学の学生・教職員をはじめ、歴史、考古学、世界遺産などに関心のある一般の方々のご来場をお待ちしております。

内容

本展は、写真パネルを使用してクルディスタン地域の現状、および中部大学の活動について紹介します。今回は、2020年度に引き続き第2回目の開催となり、「文化遺産」、「歴史」、「人と暮らし」をテーマとして写真パネルを選択しています。

文化遺産には有形・無形のものがありますが、私たちが目下対象としているのは有形のもので、「考古遺跡」と「歴史的建造物」が中心です。これらを現地の人々と調査し、記録することで、後世に残してゆく手段をいっしょに考えています。

またクルディスタンの歴史は、これまで軽視されてきました。その歴史を調査し、人々にどのようにその重要性を伝えていけるかを検討しています。最後に、そこに住む人と暮らしへの理解を抜きに文化遺産の保護活動はできません。どのような人々と活動を展開しているか、その一端をご紹介します。

本展は、文化庁委託・令和3年度文化遺産国際協力拠点交流事業「イラク・クルディスタン地域における文化遺産国際協力拠点交流事業」の一環として実施いたします。

期間：2021年11月29日（月）～12月24日（金）

場所：中部大学附属三浦記念図書館 エントランスホール & 1階センターエリア

主催：文化庁・中部大学

共催：ヤシン・テペ考古学プロジェクト

中部大学附属三浦記念図書館へのアクセス

場所：中部大学春日井キャンパス（右図参照）

住所：〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200

電話：0568-51-1111（代表）

・JR中央本線「神領」駅下車、北口「中部大学バスのりば」より名鉄バスで約10分

・JR中央本線「高蔵寺」駅下車 北8番のりばより名鉄バスで約10分

お問合せ先

- ・中部大学人間力創成総合教育センター事務室 gec@office.chubu.ac.jp
- ・西山伸一 shin_nishiyama@isc.chubu.ac.jp



会場へのアクセス
(中部大学春日井キャンパス)